

令和3年度 ESD 推進校 実践のまとめ



聖ヶ丘中学校



連光寺小学校



聖ヶ丘小学校



聖ヶ丘中学校区



令和3年度 ESD推進校 実践のまとめ



【目次】

令和3年度 聖ヶ丘中学校区 取組概要	1
--------------------	---

【各校の実践】

□多摩市立聖ヶ丘中学校	2
-------------	---

「自分たちにもできる身近な取り組み」



□多摩市立連光寺小学校	4
-------------	---

「未来に優しいエネルギー」



□多摩市立聖ヶ丘小学校	6
-------------	---

「米から見よう、世界と日本」



□成果と課題	8
--------	---

令和3年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

小学校は今年度より、中学校は令和3年度より新学習指導要領が全面実施される。その前文にも明記されている「持続可能な社会の創り手」となる児童・生徒を育成するために小学校から中学校までの連続した9年間の義務教育において、発達段階に即したESDの取り組みを通して、効果的に3校が共通して求める資質・能力を育む。

2 取組設定の理由

ESDを通じて身に付けさせたい資質・能力を小中学校で統一させた。それによって、9年間の義務教育におけるESDの取り組みでのゴールが明確になると考えた。また、ESDを通じて身に付けさせたい資質・能力を統一させることで、3校の取り組む内容に連続性がなかったとしても目指す資質・能力は同じであるから、小学校1年生から中学校3年生まで、各学年の発達段階に応じた課題設定・取り組みが可能であり、また連光寺小学校、聖ヶ丘小学校、聖ヶ丘中学校それぞれがこれまでの長い歴史の中で培ってきた学校独自の特性等も生かしつつ、効果的に児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むことができると考えた。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し活用する能力
- 【意思・態度】環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度
- 【探究する力】コミュニケーション能力（伝え合う表現力）
- 【思考力】内省的な思考力（考えを深める力）

4 実践のポイント

【多摩市立聖ヶ丘中学校】

・ジャパンアートマイルが主催するアートマイル国際協働学習プロジェクトを通して、SDGsについて調べたり、深く考えたりする。また、海外の学校との意見交換をする上で、コミュニケーション能力の育成を図る。（第2学年の総合的な学習の時間）

・学年をまたいだ縦割りのクラスごとで、自分たちの世界が置かれている状況を知るとともに、「自分たちにできること」を考え、成功までの道のりを計画し、実践していくことで、環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度を育成する。（各学年の総合的な学習の時間）

【多摩市立連光寺小学校】

自分たちの未来を考える際、SDGsについて調べたり、エネルギー問題について考えたりする。日本の発電の抱える課題や改善点など、話し合いを通して見いだす。他の学校との交流や生活・総合発表会を通して、未来に必要な発電に対する考えを深める。

（第6学年の総合的な学習の時間）

【多摩市立聖ヶ丘小学校】

米について調べたり、米作りを体験したりすることを通して、米作りの工夫や努力について知る。農家が抱えている課題から地球環境が自分たちの生活に関わっていることに気づき、自分たちにできることを協働的に考え、多角的な視点で調査・追究し、実践しようとする態度を育てる。

（第5学年の総合的な学習の時間）

1 単元名(教科・領域)・学年

アートマイル国際協働学習プロジェクト (総合的な学習の時間) 第2 学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■コミュニケーション能力 ■他者と協力する態度

3 単元の目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界全体に不安や恐怖が広がる中、世界の子どもたちがつながり、支え合う場を作る。
- (2) 学年をまたいだ縦割りクラスごとで、自分たちの世界が置かれている状況を知るとともに「自分たちにできること」を考える。その中で、成功までの道のりを計画し実践していくことで、環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度を育成する。



4 単元計画の概要【全20時間】

- (1) アートマイル国際協働学習プロジェクトの相手校との交流に向けて、インドネシアに関することを調べ、発表し合う。



- (2) SDGsの目標4を中心に、自国の課題についてまとめ、ビデオ通話をするための準備をする。



- (3) 活動してきたことを中心に、インドネシアの生徒とビデオ通話による情報交換と話し合いを行う。



- (4) 発表し合ってきたことを象徴する壁画を、インドネシアの生徒と協働で作製する。



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第10時】

(1) 本時の目標

ア SDGsのテーマについて調べ、世界の状況を知る。

イ 自分たちが調べたことや体験を通して、身近なことでできるものは何かを考え実践する。

(2) 授業の展開

導入

テーマごとに SDGs とは何かを
を話し合い、それぞれが抱える
問題点を共通理解する。

1



1



1

展開

堆肥作りや農作物の栽培を通
して、好循環がもたらす影響
を学ぶ。

2



2



3

廃棄物の再利用に着目し、使用
済みの布からコースターを作
り、活用する。

3

「フェアトレード」とは何かを
学び、地元企業と連携して啓発
活動を行う。

4



4



5

まとめ

それぞれの活動がもたらす効果
の検証と、今後の取り組みなど
について協議する。

5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

SDGsに関する発表から

・現在もなお、教育を受けたくても受けられない環境や、栄養のある食事や安全な水が手に入らないなど、様々な課題が複雑に絡み合っていることが分かった。自分たちができることは小さいが、現状を知る努力をし、積極的に活動していく必要がある。

フェアトレードを学んで

・フェアトレードという言葉自体を初めて聞いたので、また違った視点で売られている物を見ることができるようになった。もっとフェアトレードが世の中に浸透してほしいと感じた。

(1) 成果

・今回取り組みを通して、身近なところからSDGsについて行動を起こすことができる実感できた。何気なく食べているものや捨ててしまっている物について考える視点を獲得することができた。

(2) 課題

・今回活動し学んだことが、他の分野でも相関している意識が十分ではなかった。

1 単元名（教科・領域）・学年

未来に優しいエネルギー（総合的な学習の時間）

第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 身に付けたことを生かして必要な情報を取捨選択し、精査して活用する技能
- 地球温暖化など世界の課題に関心を持ち、意欲的に探究活動に取り組む態度。

3 単元の目標

地球温暖化や世界の課題に関心を持ち、仲間と協働しながら探究活動を行い、より良い社会をつくるためにできることを考え、地域へ発信しながら行動する。



4 単元計画の概要【全70時間】

(1)未来に優しいエネルギーを考えていく活動の始まりとして、校長やゲストティーチャーの高校生の講話を聞き地球温暖化、再生エネルギーについて理解を深める。



(2) 様々な発電方法があることを知り、それぞれのメリット、デメリットを基に未来のエネルギーについての考えをもつ。タブレットを活用して「個人→グループ」の流れで資料をまとめる。



(3)SDGsの目標7を中心にエネルギー作りについて考える。どのように電気が作られているかを調べ、実験し、まとめる。発表会を通して、未来に必要な発電を自分なりの根拠をもって考える。聖蹟桜ヶ丘駅前イルミネーションに参加する。



(4)ポートフォリオを活用し、一年間の活動を振り返る。一番伝えたい内容をまとめ、生活・総合発表会で他学年に伝えたり、他の学校の児童と交流したりする。



5 授業の紹介【友達のアドバイスを受けて、これからの計画をたてよう 第38時】

(1)本時の目標

友達の中間発表を聞き、改善点のアドバイスや新しいアイデアを提案し、そこから、計画の修正を行うことができる。

(2)授業の展開

導入

中間発表のテーマ「より多く発電させるにはどうしたらよいか」という視点を示し、本時のめあてを確認する。

1

展開

①ワールドカフェ方式で、友達のグループの発電方法や途中経過の発表を聞く。

2

②より多く発電させるための改善点や新しいアイデアなどをグループごとに話し合い、Google Classroom に送る。

3

③受けたアドバイスを基に、次回からの活動計画を考え、Google ドキュメントにまとめる。

4

まとめ

各グループまとめを全体で共有し、次回以降の学習活動を確認する。

5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・発電がうまくいかない時も諦めずに何回も試行錯誤して作ったことで、よりよいものを作るために考える楽しさを知った。
- ・今の環境問題や未来へのことについて身近に感じ、考えを深めることができた。
- ・友達と協力することの大切さを改めて感じ、同時に他の人と一緒に物をつくる楽しさと達成感を共感できた。また、発電する楽しさ、苦労を学べたのが良かった。

(1)成果

- ・発電量や発電効率の大切さに気付くことができた。
- ・Google ドキュメントを活用することで、資料作成の時間が削減され、話し合う時間をより確保することができた。

(2)課題

- ・社会の課題に対して、自分事として行動にまで結び付けて活動していくことが難しい。

1 単元名（教科・領域）・学年

「米からみよう、日本と世界」

（総合的な学習の時間）

第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■集めた情報から、自分たちにできることを考え、実践していく態度

■身に付けたことを生かして必要な情報を精査して活用したり、発信したりする技能

3 単元の目標

米について調べたり、米作りを体験したりすることを通して、環境問題と自分たちの生活が関わっていることに気づき、自分たちにできることを協働的に考え、多角的な視点で調査・追究し、実践しようとする態度を育てる。

4 単元計画の概要【全50時間】

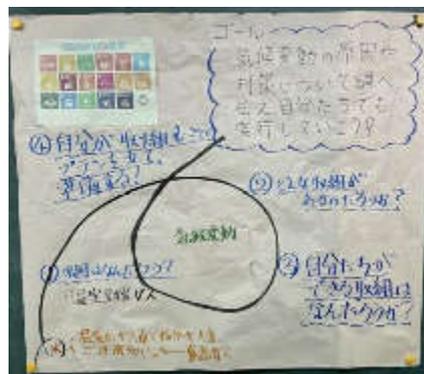
(1) 「米からみよう、日本と世界」を考えていく活動の始まりとして、実際に体験をしたり、米農家の方にインタビューをしたりして、米作りの工夫や努力について知る。また、稲作農家が抱えている課題と地球環境が深く関わっていることに気づき、問題意識をもつ。



(2) 地球温暖化の影響に気づき、温暖化が世界でどのような影響を与えているのか具体的に調べる。SDGsの目標13の視点に立って、地球温暖化影響について話し合い、さらに改善するため情報を収集する。



(3) 収集した情報をグループで共有する。思考ツールを活用して、整理する。「個人」「みんな」「地域」で、できること、できないことを整理し、その中から自分たちにできることを選択し、実践し発信する。



(4) 実践や発信を振り返ったり、価値付けしたりして計画の見直しを行った上で、さらに探究的に取り組んでいくことを目指す。



5 授業の紹介【地球温暖化を防ぐために、できる取組を考えよう 第40時】

(1) 本時の目標

地球温暖化防止の取組を、具体的にイメージするとともに、その中から自分が実践できることを選択することができる。

(2) 授業の展開

導入	前時を振り返り、本時のめあてを確認し、地球温暖化を防ぐためにできることを考えていくことを確認する。	1
展開	①前時までに調べた地球温暖化を防ぐための取組みを座標軸で分類する。	2
	②思考ツールを活用し、地球温暖化を防ぐための取組として「個人でできる」「みんなで協力してできる」「すぐできる」「時間がかかる」の4つの観点で整理する。	3
	③グループごとに話し合った内容を報告し、学級全体で共有する。	4
まとめ	本時を振り返り、次回の見通しをもち、次回の活動内容を考える。	5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・米農家の方の話を聞いて、環境問題が自分の生活との関わりが深いと感じることができた。
- ・環境問題について調べたことで、複数の原因があることを知ることができた。
- ・地球温暖化を防ぐための取組みを調べたり、共有したりすることで、普段の生活で節電や節水等を実践することができた。

(1) 成果

- ・思考ツールを使ったことで、個人やグループなど様々な形態で子どもたちが地球温暖化へ向けての取組について考えることができた。
- ・単元を通して話し合いを重ねてきたことで、自分の考えを意欲的に発表するようになった。

(2) 課題

- ・座標軸で分類する際に「自分たち」という範囲が曖昧だったことで子どもが逆に悩んでしまう場面があった。



ESD推進校の成果と課題

1 各学校の成果と課題

□聖ヶ丘中学校

【成果】

- インターネットで情報収集し、必要な情報を取捨選択することができていた。
- 体験したことを基に、自分には何ができるかを深く考えさせることができた。
- 学習を通して、新たに考える視点を獲得することができた。

【課題】

- インターネットでのコミュニケーションでは、事前に準備した内容は伝えられたものの、会話の中で臨機応変に返答することが難しく、生産的な話し合いとまでは至らなかった。
- 活動することが何につながっているのかについて、より多面的に考える機会を作るべきであった。

□連光寺小学校

【成果】

- 聖蹟桜ヶ丘駅前のイルミネーションの参加は、学習のモチベーションを高めるとともに、活動を振り返ることにつながった。
- 様々なジャンルのゲストティーチャーを招くことにより、多面的な考えを理解し、自らの価値観を創造することができた。
- タブレット端末やシンキングツールが活動の記録やまとめ、思考の整理に有効であった。

【課題】

- 話し合いや内容の深まりには、タブレット端末以外の方法も取り入れる必要がある。
- タブレットの扱いにおいて個人差が大きくなるため、計画的に段階を追って指導したりする必要がある。
- 学びの中で活動が制限され、体験や学習活動に関連性や系統性をもたせるには至らなかった。

□聖ヶ丘小学校

【成果】

- 様々な資料から、自分に必要な情報を取捨選択して集め、活用することができていた。
- タブレット端末や思考ツールを活用することで、物事を比較したり、分類したりしながら自分の考えを整理したり、交流したりすることができていた。
- コロナ禍で、地域との直接的な交流や関わりが限られてしまうことはあったが、手紙や電話、メール、オンライン等様々な形での交流を行うことができた。

【課題】

- 何のためにタブレット端末を活用するのか、常に明確にしておくことが必要である。
- 6年間で身に付けるスキルを系統立ていくことで、効果的に活用していける。



2 中学校区の取り組みの成果と課題

【成果】

- 聖ヶ丘中学校区におけるESDで育成したい4つの資質・能力や取り組みについて、3校で共有することができた。
- 地域の特性を生かした各校の取り組みを理解することができた。
- 中学校の取り組みを小学校に広げて、活動することができた。

【課題】

- ESDを通して育成する4つの資質・能力をどの段階で、どの程度育成するかについて、3校での共有ができたが、実践を経た検証までには至らなかった。
- 4つの資質・能力について、児童・生徒が振り返るための評価規準（ルーブリック）の活用について共通理解を図る。
- 今後、3校の児童・生徒が学んだことを発信し合う機会をつくり、直接関わることができる機会をもつことが取り組みの成果につながる。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

- ・小中連携事業における授業参観を通じた、各校のESDの取り組みへの理解を促進する。
- ・評価規準(ルーブリック)を共通理解し、継続的に活用していく。
- ・中学校体験、中学校説明会において、児童、生徒が主体となるような活動を行う。
- ・小中連携事業における防災学習を持続可能な取り組みに位置付ける。
- ・児童生徒同士のESDを通じた交流・発信として、児童会と生徒会から始め、タブレット端末等活用して行い、その後児童生徒全体に広めていく。
- ・令和4年度の教育課程の補助資料として作成した「ESDを通して育成する資質・能力の段階表」に添って、各校の各学年が具体的な取組を展開していく。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・授業の成果がSDGsに結びつくことを日常的に意識させる授業を心がけ、小中学校のつながりを感じさせる。
- ・各教科の授業、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、学校行事、学年行事、特別活動といったあらゆる学校での学びの場面で、SDGsの17の目標を掲げ、成果が目標達成に近付けたかを確認しながら学習する。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・「聖ヶ丘小が考える理想のまち + 連光寺小が考える未来 = 聖ヶ丘中が考える未来の多摩市」のような義務教育9年間のつながりが見える発表を行う。
- ・小中学生の頃から「多摩市を将来どんなまちにしていきたいのか」考え、この会議を続けていくことに意義がある。実際に児童・生徒同士が主体的に議論し合うことで新たな発想や取り組みへと発展させていく。

